

ブラインドサッカーって
どんなスポーツ？



ブラインドサッカーはパラリンピックの正式種目にもなっていて、種目名は「5人制サッカー」といいます。選手たちは視覚以外の感覚を研ぎ澄ませ、ボールの転がる音やフェンスに当たる音、仲間の声、相手が走る音や気配などを頼りにプレーします。仲間と自分を信じ、見えないとは思えない勢いでプレーする姿は迫力満点です。

ブラインドサッカーは、目の見える人でも、アイマスクを着ければ試合に参加することができ、障害のある人もない人も一緒に楽しめるスポーツです。本庄市は、盲目の国学者塙保己一の生誕の地であり、これからも、障害の有無にかかわらず、地域で共に支え合い安心していきいきと暮らしていける共生社会の実現を目指していきます。

ロービジョンフットサル岩田朋之選手からのメッセージ

私は、東京2020オリンピック・パラリンピック競技大会の聖火ランナーとして、昨年、埼玉県を走らせていただきました。なぜ本庄市で聖火ランナーを希望したかと言うと、「ロービジョンフットサル日本代表を継続的にサポートしてくれた、本庄市の皆さんへ恩返しをしたい」という思いからです。

2016年から縁あって、本庄市をロービジョンフットサル日本代表合宿の拠点地として活動するようになり、本庄市の皆さんと関わりをもち、交流を深めてきました。

規模の小さいロービジョンフットサルは、日本代表として活動するにあたり、自己負担を重ねながら活動を続けていました。そんな僕たちに、本庄市の皆さんは合宿における食事面や宿泊面のサポートを提案してくださいました。

本庄市の皆さんと、ロービジョンフットサルを通じて関わる中で、①本庄市は盲目の国学者塙保己一の生誕の地であること②本庄市はかつて宿場町として栄えていたため、人々を助け合う文化があること③ロービジョンフットサルは、まだまだ規模が小さくとも、日本代表としてリスペクトの気持ちを忘れてはいないということ、この3つを本庄市の皆さんから教えていただきました。

聖火ランナーとして埼玉県を走ることで、本庄市の素晴らしい人柄や地域性を広め、また、8年前に中途視覚障害者となり、苦しい時を過ごしていた僕を救ってくれたロービジョンフットサルに恩返しをするとともに、このパラスポーツが広まることを願っています。



10月10日(月・祝)に開催されるスポレクフェスタ2022において、岩田選手による聖火ランナー体験が行われます。
詳しくは、広報9月15日号の折り込みチラシをご覧ください。

本庄市スポーツ少年団紹介

本庄アタッカーズ



“ドッジボール”をやった事のある人は多いと思いますが、それが競技スポーツになっている事を知っている人は少ないのではないのでしょうか。1991年に日本ドッジボール協会が設立され、それまで地域、学校、果てはクラス毎に違っていたルールが統一され、遊びが競技になりました。

今年2回、全国の予選を勝ち上がったチーム同士で優勝を決める全国大会が開催されています。

競技ドッジボールに興味を持った小学生の見学を待っています。

活動日時 ①土・日14:00~18:00 水(自主練)18:00~21:00
②金 19:00~21:00
活動場所 ①本庄南小学校 体育館
②北泉小学校 体育館
連絡先 片場 元彦 ☎080-3701-3491
ホームページ <http://honjoattackers.nomaki.jp/>
(会費等の詳細はお問い合わせください。)

